

双葉通信【第 255 回】（被災地に行くNo.30）“ふくしまの切り捨ては許さない”

2025 年 9 月 6 日 上 田 勉

大熊町の間蔵施設（帰還困難区域）内をフィールドワークする！

9 月 6 日、大熊町の間蔵施設内（帰還困難区域）にある、熊町小学校を震災遺構として残すためのフィールドワークに参加しました。大熊未来塾の主催です。代表の木村紀夫さんは、津波で父上と奥様と娘さんを亡くされました。

大熊町の概要です。人口は、震災前が約 13,000 人、現在は約 11,000 人です。その内町内に居住している人は約 800 人です。内訳は、帰還した住民が約 300 人（帰還率は 2.7%）です。新しく移住した住民や東京電力の関係者が約 500 人です。除染していない場所の放射線量は、2.124 マイクロシーベルトもあります（基準値は 0.23 マイクロシーベルト以下、基準値の約 9 倍）。樹木も、梨の木は 31 ベクレル、梅の木は 72 ベクレル、ふきは 500 ベクレルあるとのこと（食料品の基準値は 100 ベクレル以下）。

大熊町は、2019 年 4 月 10 日に一部地域で避難指示が解除されて、帰還できるようになりました。帰還するかしないかは、住民の自己責任です。そして、住民は解除後 1 年間以内に、家や田畑を除染するか、家を解体するのかのどちらかを決めなければなりません。それ以後は、家屋の解体は自己負担になります。

大熊町は国道 6 号を挟んで、西側（山側）の帰還困難区域が解除された地域では、大熊中学校や図書館など歴史のある建物が解体されました。一方東側（海側）は、間蔵施設です。福島県内の除染した土を貯蔵保管します。保管期間は 30 年、2045 年には他県に搬出することが、法律によって決められています。

帰還困難区域なので、幸か不幸か建物は解体されないで残っています。残っている建物は、熊町小学校・熊町幼稚園・熊町児童館・熊町公民館（以上大熊町所有）、ふれあいパーク大熊、熊町水産振興公社・栽培漁業センター、サンライト大熊（特別養護老人ホーム）です。

熊町小学校は、明治 26 年（1893 年）に熊町尋常小学校として開講しました。大正時代には、木造校舎に建替えられました。132 年の歴史ある小学校です。去年には、大震災当時の生徒に学校を開放して、ランドセル等の私物を持ち帰ってもらう行事が行われました。

現在は、運動場も雑草やツタが繁殖して、見渡すことが出来ません。校舎は外から見学することが出来ました。机の上には、ランドセルや教科書や文房具が置かれたままになっています。大震災によって、生徒たちは教職員の引率によって、避難しました。小学校は高い場所にあったので、津波は来なくて、生徒や教職員全員が無事でした。まさかその時には、原発事故が起こるとは、誰一人思いませんでした。

E さん宅を見せてもらいました。14 年 6 カ月間、時間が停まったままです。庭は草が生い茂っています。建物の中は泥棒や動物に入られて、荒されたままです。土足で室内に入るのが、申し訳ないです。住むためには、解体して建て替えるしかありません。



【熊町小学校一時計の針は大震災の2時46分で停まっている（大熊町）】（20205年9月6日撮影）



【熊町小学校の教室一生徒が避難したまま（大熊町）】（20205年9月6日撮影）